

カメラ片手に

やまなみ歴史散歩

縄手村道路改修碑→空川地蔵→出合地蔵→歯神地蔵→地蔵谷川分水の樋→二本松古墳
→醍醐寺→常光院→花岡山（大阪経済法科大学）（解散）



醍醐寺

やまなみプラザ
まち・むら文化研究会 杉山三記雄



参考 東大阪市文化財ガイドブック

縄手村道路改修記念碑



昭和9年6月に建立された道路改修記念碑。この当時は縄手村であったので裏面に村長、村会議員名が刻まれている。現在、学校名で残っている縄手という名称は歴史的な名称であり、まっすぐに伸びている道を指していると考えられる。

昭和4年に枚岡南村、池島村が合併し縄手村になり、昭和22年10月に縄手村から縄手町に変遷した。

出合地蔵



出合地蔵は安養寺を北に行ったところにある。来迎印阿弥陀仏像を半肉彫りしている。石仏はもと鳴川峠道の出合というところの岩壁に彫られた磨崖像の一部を切り取っている。南北朝末時代の作ではないかと考えられる。

空川地蔵



東高野街道から鳴川街道を入り少し登ったところにある。現行1.3mある大きな石仏。南北朝時代の石仏と考えられる。鳴川峠を越えると大和に着く要衝の地であり、南北朝末時代の出合地蔵とともに重要な石仏と思われる。

齒神さん



南朝の楠木正行方の武将、和田賢秀が敵将の首に噛みつき殺したと伝わる。賢秀の霊を祀り慰霊している。地蔵尊のある上四条は南北朝の戦場といわれ、近くの六万寺往生院に正行の墓が市文化財指定になっている。昔から歯痛に効くと信じられてお参りが続けられている。

地蔵谷川分水の樋



地藏谷川はく菊水学園の下流、100mで、旧六万寺村へ流れる長門川と旧四条村へ流れる空川に分流している。その分岐点に一对一に分水する石橋が置かれている。

当時の水は農業にも欠かせない重要なもので、みぞという字は漉と書かれ、水の一滴は血の一滴に値したと言っても過言ではないだろう。

二本松古墳



この古墳は、南側に入口をもつ横穴式石室を内部主体としており、巨大な自然石を積み上げて造られている。石室内は、通路としての羨道と、奥の墓室である玄室に分かれていて、死者は、木棺や石棺に納められて玄室に葬られている。昭和39年調査した結果、盗掘されており、石棺の破片の他、各種の須恵器や土師器などが出土したほか、中世の土器類・銭貨かが出土している。市の史跡に指定されている。

醍醐寺（安楽寺）



醍醐寺は、正しくは「天嵐山 醍醐庵」と称し、臨濟宗妙心寺の末寺。創建は、はっきりしないが、当初は安楽寺と称し、如意輪観音を本尊とする密教寺院。

鎌倉時代の末、元弘の変(1331)の時、後醍醐天皇が京都から吉野へひそかにうつら

れるとき、当寺に立ち寄られたことから、それ以後「醍醐庵」と、改称したといわれている。元分年間(1736-1741)のころ、覚通浄と妻の貞純尼が妙心寺派の寺院を開基し、岸和田の十輪寺から円宗妙覚禅師を迎えて開山したと伝えられている。

本堂内の喚鐘は、安楽寺○珍の時、文化11年(1814)池島村の人たちが世話人となって納めたもので、この頃は「安楽寺」と称していたことがわかる。天保十四年(1843)横小路村明細帳には、「京都妙心寺流 庵寺安楽寺」と載せられている。

明治になり、大阪寒山寺(現箕面市)の末寺となり、現在は本山の直末寺で、河内新西国三十三霊場の札所であり、地元では、安楽寺と呼ばれ信仰されている。『東大阪市教育委員会』

常光院



黄檗宗、山号は迷脱山、寺名は正式には常光院地藏禅寺といい、俗に子安地藏で親しまれている。本尊は室町時代末作一石二尊仏。本堂の左側に前半部を欠いた横穴式石室古墳がある。

お堂の扁額は、宇治の黄檗宗万福寺を開いた僧隠元(1592~1673)の書といわれている。

大賀世神社



江戸時代は蔵王権現と称し、明治5年枚岡神社の合祀、明治13年に復社して大賀世神社となった。祭神は天御柱神、本殿は市指定文化財。小高い山の上にまつられ、古墳と考えられる。

西教寺



浄土真宗本願寺波、山号は天王山、寺伝によると寛永2年（1625）僧是玄が中興し、承応3年（1654）寺号公称で西教寺となったとある。伝承、八兵衛にまつわるかんざしと手紙が所蔵されている。

花岡山



大阪経済法科大学の正門を入ったところの小高い場所に花岡山遺構碑が建っている。古墳時代前期の前方後円墳があったが、昭和30年に消滅した。

花岡山に、元和元年（1615）、5月6日に大坂夏の陣の際、徳川方の井伊直孝軍勢が陣をここに置き、十三街道を下って、西方の若江堤で待ち受ける、豊臣方の木村重成軍勢を攻め落とした。

（参考：東大阪市文化財ガイドブック）